

令和 5 年度 博物館施設 目標設定・評価シート

年度当初目標設定
中間評価（ 月 末実績）
年度末確定評価

施設名 嵐山史跡の博物館

I 自己点検・分析

- 1 館の使命・ビジョン
- 2 現状分析と課題の抽出
- 3 チェックリスト(自己点検表)

II 目標設定

- 1 中期重点目標と取組みの設定
- 2 単年度指標による数値目標と達成値
- 3 取組みの概要

III 評価

- 1 自己評価総括
- 2 外部評価委員等によるコメント

I 自己点検・分析

1 館の使命・ビジョン

- 1 菅谷館跡や比企地域の中世城館跡をはじめとする文化財を次世代に継承するため、資料の調査研究、収集保管及び活用を図る。
- 2 県内の中世城館跡や寺院跡、板碑や中世石造遺物等に関する調査研究の成果を市町村等と連携しながら展示公開する。
- 3 地域や学校と連携し、菅谷館跡や比企地域の中世城館跡をはじめ中世の史跡に関する学習を支援する。
- 4 ボランティアの育成や活用を積極的に行うとともに、地域社会の様々な団体と連携して事業を行うなど開かれた博物館活動を推進する。
- 5 菅谷館跡を中心に県民が集い、交流し、活動するやすらぎと潤いのある快適な歴史空間を提供する。

2 現状分析と課題の抽出

- ・ 菅谷館跡における発掘調査の予定はなく、新たな資料の発見がない。
- ・ 比企地区の城館跡や石造遺物等に関する調査研究成果の展示は、比企地区巡回展などを通じて展開中。
- ・ 学校団体(主に小学3年生)からのニーズは「むかしの暮らし」の体験であり、当館が使命として掲げる「中世の史跡に関する学習の支援」とは乖離している。
- ・ ボランティアの高齢化、活動内容の硬直化・陳腐化への対応が必要。
- ・ 快適な歴史空間の創出のため、館跡の整備(樹木の剪定伐採・草刈り等)が不可欠だが、予算面や人員面で対応不十分。
- ・ 施設の老朽化、維持管理経費の高騰による事業経費への圧迫が深刻。
- ・ 令和5年度は史跡保存活用計画の策定が最優先課題(国費導入事業)。

II 目標設定

1 中期重点目標と取組みの設定

【中期重点目標】

- | | |
|------------------------------|---------|
| ① 菅谷館跡保存活用計画の策定(5年度)と、策定後の実施 | 令和5～7年度 |
| ② 情報発信の充実 | 令和5～7年度 |
| ③ 館跡の樹木・草地管理による危険の除去と景観の向上 | 令和5～7年度 |

【取組み】

- ① 菅谷館跡保存活用計画策定委員会の開催・計画書の作成と必要な事業費の確保
- ② 館の魅力向上と随時・的確な情報発信及び発信効果の検証
- ③ ナラ枯れ樹木や老木の伐採、職員による草刈りの頻度上昇

I-3 チェックリスト(自己点検表)

施設名 嵐山史跡の博物館

(1) 全館共通項目

		達成基準	
		未実施、又は取り組まれていない	1
		実施しているが、取組みが不十分	2
		実施、又は達成している	3
項目	チェック内容	達成度	課題等
資料収集	① 資料の収集方針、収集計画に基づき、資料収集を適切に行っているか	/	寄贈寄託の受入れのみ
	② 映像資料や情報資料等を収集しているか		原則、資料収集は行わない
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項に基づき、資料の保存管理を適切に実施しているか	3	
	② 資料の所在確認とともに状態の点検を定期的に行うなど、資料を適切に管理しているか	2	寄託資料の点数が確認不足だった事例あり
	③ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的あるいは必要に応じて行っているか	2	
	④ 資料のデータベースの情報を適宜更新し、公開しているか。	3	
資料活用	① 収蔵資料の館外貸出及び特別利用に適切に対応しているか。	3	
	② 収蔵資料をホームページやSNS等で紹介・更新しているか	3	
	③ 収蔵資料のデジタル・アーカイブ化(画像を含めた)に取り組んでいるか	3	
常設展示	① 展示設備等を適宜点検しているか	3	
	② 常設展示は定期的に更新しているか。	3	
	③ 展示ガイドあるいは解説リーフレットを作成し、必要に応じて内容を更新しているか	3	
	④ 展示解説等を適宜実施しているか	3	
	⑤ アンケート結果等を活かした展示改善を実施しているか	2	なるべくアンケート結果を踏まえた改善に努める
	⑥ 日本語を母語としない入館者に配慮した案内表示や展示パネル表示、パンフレット等の配布を行っているか	2	ごく少ないが、今後増やす予定もない
	⑦ 観覧者の満足度は得られているか	3	
学習支援・普及事業	① 誰もが参加しやすい普及事業を実施しているか(参加申込み方法・プログラム内容・サポート体制等)	3	
	② アンケートなど県民の意見をプログラムの開発・改善に取り入れる工夫をしているか	2	
	③ 来館者用の図書・情報コーナーを適切に運営しているか	3	
	④ 学芸員実習やインターンシップを積極的に受け入れているか	/	

項目	チェック内容			
情報発信	①	SNS等その他のあらゆる媒体を活用して、誰もが受け取ることができる情報発信に努めているか	3	
	②	資料その他の専門分野に関する調査研究の成果を生かした情報発信に努めているか	3	
	③	定期的に内容を更新し、常に新しい情報発信を行っているか	3	
	④	デジタル技術を活用したコンテンツの制作・公開に取り組んでいるか	2	
県民との協働・地域連	①	ボランティア活動に関する規程に基づいて、適切に運用されているか	3	
	②	ボランティア研修を適切に実施しているか	3	
	③	外部団体が館事業に参加する機会を設けているか	3	
	④	地域で実施されるイベント等に積極的に関わっているか	3	
	⑤	地域の多様な主体との連携に取り組んでいるか	3	
調査研究	①	収蔵資料に関する調査研究に積極的に取り組んでいるか	3	
	②	資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	2	
	③	館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	2	
	④	学芸員の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	2	
	⑤	調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	3	
施設・アメニティー	①	施設の維持・改善についての計画を策定し、定期的に更新しているか	1	施設改修計画などは策定していない
	②	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	2	
	③	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	3	
	④	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	2	
	⑤	館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	1	最低限の館内サイン類にとどまる
	⑥	展示室内の安全性の確保(監視員の配置・監視カメラの設置等)に努めているか。	2	少ない職員数で
施設の利活用	①	施設利用のための情報を公開しているか	3	
	②	施設を一般及び学校団体等の利用に提供しているか	3	
	③	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	3	
	④	施設利用が、地域や他施設・機関・学校等との連携に役立っているか	3	

施設名 嵐山史跡の博物館

(2)館別独自項目

達成基準	
未実施、又は取り組まれていない	1
実施しているが、取り組みが不十分	2
実施、又は達成している	3

項目	チェック内容		達成度	課題等
史跡保存活用計画の策定	①	保存活用計画を策定したか	3	
	②	保存活用計画を公表したか	3	
	③	国庫経費の執行は適正か	3	
	④	計画策定後の計画推進に向けた予算は確保したか	1	共通デザインのサイン設置 便益施設の改修/撤去の検討を要す
情報発信の充実	①	ホームページやツイッターの掲載内容・掲載時期は適切か	3	
	②	情報発信の効果に対する利用者の反応を把握しているか	3	
	③	館の魅力向上策に取り組んでいるか	3	
樹木の充実に 草地管理	①	館跡の見回り、危険個所の把握に努めているか	3	
	②	樹木管理・草地管理の頻度は適切か	2	草刈りなどは手に負えないこともある
	③	保存活用計画の実施を考慮した管理を行っているか	2	計画の策定を受けて今度検討
企画展示事業の実施	①	史跡の博物館としての企画展を計画・実施しているか。	3	
	②	企画展に関連した講座・講演会を開催しているか。	3	
	③	アンケートを実施して、参加者の意向を把握しているか。	3	
関係機関との連携	①	地域団体と連携した事業展開をしているか	3	ロビー展関係団体など
	②	関係団体や大学、他機関と連携した事業展開をしているか	3	比企地区文化財振興協議会 比企城館跡群連絡会議 女子栄養大学・大東文化大学ほか

施設名 嵐山史跡の博物館

Ⅱ-2 単年度指標による目標値と達成値

(1) 全館共通項目

	視点	項目	指標	目標値		達成率	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1		利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	71,200	人	77.0%	第3期教育振興基本計画目標値 71,200人	
				54,793	人			
2		利用者数	企画展観覧者数	6,000	人	38.5%	令和4年度企画展「鎌倉殿」6,724人 令和5年度企画展「武蔵武士の食と信仰」2024/1/13~3/3	
				2,311	人			
3		情報発信	HPアクセス数	95,000	件	88.7%	令和4年度アクセス数 95,063件	
				94,242	件			
4		情報発信	メディア掲載件数	100	件	98.0%	対メディア情報提供件数に読み替え 令和4年度 102件	
				98	件			
5		経営努力	グッズ・図録等の売上額	1,700,000	円	98.6%	令和4年度 物品売払収入決算額 1,794,900円	
				1,676,900	円			

(2) 館別独自項目

	視点	項目	指標	目標値		達成率	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1		広報事業内容 事業効果	歴史講座への 応募人数	2,000	人	62.3%	歴史講座Ⅰ・Ⅱ 定員各500人×4回 会場: 国立女性教育会館 Ⅰ 361人 Ⅱ 262人	
				1,246	人			
2		事業効果	歴史講座への 満足度	100	%	93.0%	4回の平均値	
				93	%			
3		広報事業内容 事業効果	文化財めぐりへの 応募人数	100	人	169.0%	文化財めぐり 定員各30人×3回	
				169	人			
4		事業効果	文化財めぐりへの 満足度	100	%	98.0%		
				98	%			
5		事業効果	学校向け体験 学習の学校からの 評価	100	%	100.0%	評価測定形式は今後検討	
				100	%			
6		経営努力	館独自グッズの 開発検討件数	5	件	120.0%	H4開発数6: 御城印高校生ver.3種・ガチャ・トートバッグ2種 御城印季節の限定バージョン、マスクングテープなど	
				6	件			
	(追加)	広報事業内容 事業効果	シンポジウム 参加者数	500	人	54.2%	国指定史跡50周年記念シンポ 2023/10/22 会場定員500 当日入場者数 271人	
				271	人			

※ 利用者数=常設展観覧者数+無料入館者数+アウトリーチ参加者数 常設展観覧者数=特別展+企画展観覧者数+常設展のみの観覧者数
 ※ 基準値: 過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値 目標参考値: 基準値と昨年度値を比較して大きい方の数値 目標値: 目標参考値の10の位を繰り上げた数値 ※ 目標値の設定については、経年の実績を同じ指標で比較することで、それぞれの年度の特徴づけをするために、新型コロナウイルス感染症による利用者への影響等を考慮しないで、例年通りの方法を採用した。

--

Ⅲ 評価

1 自己評価総括

(1) 評価

入館者数は、年間・企画展期間ともに前年度実績を大きく下回り、目標値には到達しなかった。前年2022年度は世間の注目を集めたNHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』との関連で県を挙げて観光キャンペーンを打ち、個人一般入館者は昭和51年の開館以来最多となった年でもあったことから、それとの落差が大きく出た結果となった。

入館者数は2022年度に比較して大きく落ち込んだが、職員の創意工夫によりユニークなグッズ商品を開発しPRに努めた結果、2023年度の物品等売上げ額は前年度にほぼ匹敵する水準を確保することができた。また、県民向けの歴史講座や史跡めぐりイベントに対する博物館利用者の満足度も概して高く、小規模ながらニーズに的確に応えた事業展開がなされたものと考えている。

数年来の懸案であった史跡の保存活用計画は、策定委員による熱心な審議を経、国庫からの財政的な支援もあり、当年度末に策定された。

(2) 課題と対応の方向

2022年NHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』によって盛り上がった当地域への注目を、いかに維持していくかが最大の課題であった。テレビ放映が終わってブームが移ろい、2022年度と比較した場合の入館者数の減少はやむを得ないが、地元の自治体や学校、観光団体などと連携した事業展開はその後も継続し、一定の成果を上げていると考えている。今後もそうした連携を維持し発展させていき、地域全体の知名度を高めていくことが求められる。

また、2024年3月に史跡保存活用計画が策定されたので、翌年度以降はその着実な実行が求められることになる。

2 外部評価委員等によるコメント

(※埼玉県立史跡の博物館 博物館評価協議会委員によるものです。)

(石島委員)

- ・今回の評価のうち、各チェック項目については昨年度のものより1が多くて気になる。
- ・嵐山史跡の博物館は館長も兼務であるし、職員も大変少ない中、各種事業を積極的に展開し、よく頑張っている。職員を増員することはできないのか。
- ・比企地区には博物館が少ない中、地域との繋がりが大切な博物館であると思う。
- ・嵐山町と各種事業をタイアップして地域密着型博物館を目指すべきである。
- ・歴史講座やシンポジウムの達成値が大変低いが、毎回200～300人前後の参加者がある。専門的な内容の講座で、この人数が集まるのは素晴らしいことである。目標値の設定を会場定員である500人にする必要はないのではないか。

(井上委員)

- ・過去に館の嵐山町移管を検討していたと記憶しているが、最近その調整、進展はあるのか。長期的視野に立って、検討を継続するのも大事かと思う。
- ・比企地区の市町村担当部局は、県内他地区と比較するとよく連携していると思う。その中心施設として今まで以上に地域密着の事業を行っていきべきと考える。
- ・保存活用計画が策定されたことは大変すばらしい。例えばチェック項目の「館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか」の達成水準が1である、早急な改善が求められるが、保存活用計画が策定されたことにより計画的な事業立案・展開や予算要求が行いやすくなるのではないか。

(森田委員)

- ・職員の創意工夫によるグッズ商品開発の努力は継続してほしい。
- ・史跡保存活用計画に基づく事業に期待したい。
- ・保存活用計画が入館者の増加に繋がるものとなるよう関係者と議論してほしい。